

水木しげる氏

表紙絵

＝風に飛ばされた風船はどこだ＝

表紙絵：水木しげる

・ 特集：私のすすめるこの一冊	2～5
・ 令和6年度 絵本の読み聞かせ講座	6
・ 出張！映画資料室	7
・ 第52回調布樟まつり	7
・ 郷土の歴史と伝承	8

私のすすめるこの一冊

皆さんからお寄せいただいた「私のすすめるこの一冊」です
今年はどんな本と出会えるでしょうか

★マークは、紹介者がこの一冊をどのような本として紹介したいかを示したものです

『時の旅人』

推薦者：^{いのうえあきこ}井上暁子

アリソン・アトリー／作 松野正子／訳 岩波書店 ★おもしろかった本

主人公ペネロピーは静養のため、ダービシャーの農場で暮らすことになった。近くにはのちにバビントンの陰謀と言われるようになったスコットランド女王メアリーと関係の深い農場がある。16C女王メアリーはイングランドで幽閉され、エリザベス女王に対する陰謀に加担したとして処刑される。ペネロピーはその歴史的舞台と20Cを往復しながら、お話は進んでいく。歴史の痛みを感じ、農場の暮らしは「時」を感じさせる。重厚な作品である。

『「夏彦の写真コラム」傑作選 2 (1991~2002)』

推薦者：^{おぎわらたつよし}荻原達義

山本夏彦／著 阿川佐和子／編 新潮社 ★何度も読み返した本

現代の随筆・コラムで何度も読み返した本は少ない。これはその中の一冊。40数年前の文章が今も変らぬ新しさに迫ってくる。テーマは「政治家に聖人君子を求めるな」から「魚屋なくなる」など多岐にわたるが、見出しがついており探しやすい。政権が変わって、毎度お馴染み首相以下の靖国神社参拝が問われたが「適切に判断」するらしい。この本には当時の吉田首相の参拝写真が載っており、それが日本人として当然だったようである。

『わたしの渡世日記』

推薦者：^{あら いひろすけ}荒井宏祐

高峰秀子／著 文藝春秋 ★深い感動を与えてくれる

高峰秀子は、昭和を代表する大映画女優である。その半生を記した標記の本は、日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。映画ファンの宝庫の中央図書館映画資料室にある。文章も読みやすく、田中絹代などとの共演写真や谷崎潤一郎が卓上にこぼした鯛のうしお汁を唇ですすったなどのエピソードが満載である。とりわけこの本で高峰がさりげなく、自分をいかにして造り上げてきたかを語っているのを読み取るのが深い感動を与えてくれる。



『境界の扉ー日本カシドリの秘密ー』

推薦者：^{のぶくにけんじ}信國謙司

エラリー・クイーン／著 越前敏弥／訳 KADOKAWA ★おもしろかった本

舞台は百年ほど前のニューヨークですが副題は「日本カシドリの秘密」で（おや？と思う内容も多いけど）随所に日本が登場し、最後まで興味深く読むことができます。有名なエラリー・クイーン作ですが今や古典なので中央図書館にあった角川文庫の新版の日本語訳がとても明快で読みやすかったです。ミステリなので内容には触れませんが、背表紙の「本格ミステリの傑作」は誇大広告ではなく、必ず楽しめるはず。お勧めです。

『長距離走者の孤独』

推薦者：山口(ペンネーム)

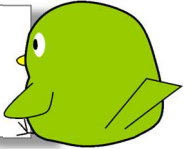
アラン・シリトー／著 丸谷オー／訳 河野一郎／訳 新潮社 ★何度も読み返した本

表題作「長距離走者の孤独」ほか7編収録の短編集です。そのうち特に、感化院に収容され自由と孤独を走り続ける若者の一人称の表題作、二つの人生が何も言わず言わなかったままに終わってしまう「漁船の絵」、舗道に降りしきる大雨の向こうへ消える後ろ姿に永遠の別れを告げる「フランキー・ブラーの没落」、この3作品をおすすめしたいです。

『原民喜戦後全小説』

原民喜／著 講談社 ★深い悲しみと愛の純文学短編集

推薦者：^{たなかしょうじ}田中昌司



放縦な生活を送っていた若き民喜は、貞恵との結婚によって心身ともに落ち着き、創作活動に勤しみました。しかし1944年に妻を失い、その後被爆します。1945年8月、名前の知らない夏の花を手にして妻の墓を訪れます。その翌々日に被爆しましたが、厠にいたため一命を取り留めます。原民喜といえば「夏の花」が比較的好く読まれていると思います。同じく本書に収められている「鎮魂歌」は、孤独と悲しみの文学的表現が美しく、読者の心に強く迫ります。他にも亡き愛妻への想いが綴られた「忘れがたみ」や「心願の国：一九五一年武蔵野市」など、どの作品を読んでも繊細で、哀しく、優しい余韻が残ります。

『江戸の憲法構想—日本近代史の“イフ”—』

関良基／著 作品社 ★おもしろかった本

推薦者：^{ながおとしひろ}長尾敏博

日本は明治維新により近代化を成し遂げた？だが成立した国家は天皇を神格化し、70数年後対外戦争の敗戦により滅ぶ。他に進路があったのでは。本書は慶応年間に起草された6つの憲法構想を基に歴史の“イフ”を探っていく。どれ1つとして天皇が絶大な権力を持つ発想はなく、現行の象徴天皇制の源流をそこに見る。また天領の村々は近代的民主主義に移行できる下地があった等。読めば眼から鱗。自分の頭を180度転換させる時がきた。

『魔女だったかもしれないわたし』

エル・マクニコル／著 櫛田理絵／訳 PHP 研究所 ★読んでほしい本

推薦者：松本遊(ペンネーム)

「魔女の宅急便」や「おジャ魔女どれみ」など、日本では魔女は大人気。しかし、中世のヨーロッパでは魔女とされた女性たちが吊るし首や火あぶりにされ、手足をしばられて湖に沈められた。それを知った11歳の女の子アデライドは、とても怒った。なぜなら、アディは自閉スペクトラムで、ほかの人とちょっと変わっているからだ。「もしわたしがそのころに生まれていたら、魔女にされたかもしれない。」そう思ったアディは、自分が住む村に、かつて魔女として命を奪われた女性たちの慰霊碑を建てようと動き出す。アディのまっすぐな勇気が、少しずつ村の人たちを変えてゆく。

『冒険者たち—ガンバと十五ひきの仲間—』

斎藤惇夫／作 薮内正幸／画 岩波書店 ★涙した本

推薦者：^{おくののりかず}奥野徳和

今から50年ほど前、私が小学5年生の初夏の頃、神戸市立中央図書館にて表紙が気に入って借りて帰り、一気に読みました。主人公は町ネズミのガンバ、友人に誘われて海を見る旅に出る。途中、重傷を負った年若いネズミが言うには、自分の住む島で多くのネズミがイタチの軍団に襲われ壊滅に近づいていると聞かされ、同じ仲間として救助に向かうことを決心。もちろんイタチは天敵で勝てる相手ではないが、勇気を奮って島へ向かい懸命に闘う物語。途中でも結末でも涙を流し、その後も今に至るまで時々読んでいます。当時、自分自身が小学校の友人のグループで違和感を感じ、自分に合う他の仲間との付き合いを始めた頃でした。自分にとって大切な仲間とは何かを書物と現実の両方で考えさせられる時期でした。テレビアニメの放送も始まり、これも夢中で視聴。今の子供達にも勇気を与えてくれると思い、お勧めする一冊です。

『いこうよともだちでんしゃ』

視覚デザイン研究所／さく くにすえたくし／え 視覚デザイン研究所 ★おもしろかった本

推薦者：はるみう(ペンネーム)

大人が読んでとても楽しめる絵本です。全てのページに豊かな色彩と小さなしかけが散りばめられていて、子供に読み聞かせをしながらも、思わず自分が見入ってしまっ、ページをめくる手が止まってしまいます。雪の降る街に住むしろくまくんに会いに電車で向かうお話ですが、秋から冬に変わっていく車窓風景や車内で賑やかなどうぶつたちの姿に読んでいこちらもワクワクします。読みながら親子で会話が弾みます。シリーズでたくさんあるので、気に入れば他の絵本もきっと読みたくなると思います。



『失はれる物語』

推薦者：^{かみえあきほ}上江明穂

乙一／著 角川書店 ★おもしろかった本

この失はれる物語の「コーリングユー」では少女リョウがけいたい電話を思い浮かべるシーンからはじまります。その電話は白くて、ツヤツヤしている電話で、リョウが望んでいる電話の姿でもあります。ある時その電話から、リョウが設定した着信音がなりでると少年シンヤと出会います。ここから二人の関係が生まれ、しだいに電話ではなく実際に会ってみることになります。しかし、二人には時間のずれがあり、困りましたがとりあえず羽田空港で会うことに。しかしそこでまっていたのはシンヤの死。それを知ったリョウはシンヤが羽田空港に来ないようにしむけました。この続きが気になる人は、ぜひ読んでみてください。

『地中の星』

推薦者：モリモリ(ペンネーム)

門井慶喜／著 新潮社 ★おもしろかった本

日本で一番早くから建設されかつ、渋谷―浅草間を走る便利な交通路線になった銀座線を計画し開通させた早川徳次の話です。地上では市電が走っていた大正時代、「電車に乗るのに下ったり上ったり、誰が使うか」とまで言われても諦めることなく交通量調査を行いました。交通量調査の結果を持って訪ねた先が、渋沢栄一。鉄道院総裁と東京市長に取り次いでもらうことになるのですが、鉄道院総裁の後藤新平より、腹心に接触するのがよかろうと紹介されたのが、五島慶太でした。いくつもの難題を乗り越え、地下鉄開通へと実を結んだ銀座線。「この世で最初の仕事がしたい」という早川徳次の野心、熱意が伝わる良い小説でした。

『ゴキブリ・マイウェーこの生物に秘められし謎を追うー』

推薦者：^{かみえさとこ}上江聡子

大崎遥花／著 山と溪谷社 ★おもしろかった本

番になると翅を食い合い生涯飛べなくなる、夫婦で子育てするなど、変わった習性をもつクチキゴキブリ。この本は、世界唯一のクチキゴキブリ研究者による、世界唯一のクチキゴキブリ研究書である。大量のゴキブリを採集・飼育し、ゴキブリアレルギーで水ぶくれを作りながら実験と失敗を繰り返す。時間と予算に追われながら研究を進めつつ、学会に挑み、論文を書き、雑誌に投稿する。好きなことをしているだけに、なぜこんなにたいへんなのか。そして、そのエピソードを書き連ねているだけに、なぜこんなに面白いのか。全力でゴキブリ愛を叫び、謎に向かって突き進む、その姿勢に感服する1冊。

『ヨモツイクサ』

推薦者：^{かみえとちき}上江智希

知念実希人／著 双葉社 ★おもしろかった本



舞台は北海道・旭川一。事の発端は森の開発事業を担っていた会社の作業員の失踪。そこは地元では禁域と恐れられる森だった。犯人は分らない、人か、熊か、それとも…。かつて同じ場所で家族を失った主人公の外科医がこの“黄泉の森”でくり広げられる惨劇の真相をつきとめるべく、様々な危険をかいくぐりながら奮闘していく、筈だった…。この森は一体何で、犯人は誰で、この惨劇はいつ終わるのか。言い伝えや事件の底知れぬ恐怖とストーリーの疾走感が作り上げる独特な緊張感の新感覚バイオホラー。「黄泉の森に入ってはいけない――。」

『青ノ果テー花巻農芸高校地学部夏の夏ー』

推薦者：^{じったみち}新田美智

伊与原新／著 新潮社 ★おもしろかった本

イーハトーブとは何処なのか？花巻農芸高校地学部の有志による宮沢賢治の地学サイトを、花巻から早池峰山そして八幡平まで自転車旅をする。文中にでてくる所の地名は、賢治作品の中に、ヒント、問題提起がある。

「銀河鉄道の夜」の登場人物のカムパネルラは、死んでいないかも……。

賢治の「オホーツク挽歌」に、とし子はあの青いところのはてにゐてなにをしてみるかかわからない。青ノ果テは死者のいる所。

この作品を読む事によって、もう一度「銀河鉄道の夜」を手に取りたくなる。

『わたしの、本のある日々』

推薦者：^{かみえひろゆき}上江博幸

小林聡美／著 毎日新聞出版 ★おもしろかった本



女優・小林聡美が綴る短編集。面白いのは単なるエッセイではなく、タイトルの「本」が示す通り、1篇わずか4頁に2冊の本を紹介するというルールだ。著者は自称“読書家ではない”そうだが、読みやすくコンパクトに見どころをまとめており、日々読むことの楽しさを満喫しているのだろうと思ってしまう。時に内容やタイトルに突っ込みをいれたり、小林氏のキャラクターが垣間見える文体もおすすめ。ぜひ読んでみてください。

『文豪の凄い語彙力』

推薦者：^{かみえゆうや}上江結弥

山口謠司／著 さくら舎 ★おもしろかった本

芥川龍之介、川端康成、太宰治…。文豪と呼ばれる彼らは、文章に的確な印象を与える、巧みな言葉の使い手であった。本書は、そんな彼らの用いる語彙を、それを構成する漢字の成り立ちにまで遡って意味を捉えようというもの。たとえ聞いたこともなかったり自分の中で曖昧になっているような言葉であっても、解説を読むと意味が自然と腑に落ちる。各章ごとに描かれる作家個人のエピソードも、読んでいて飽きさせない工夫だ。とにかく、本書を読めば、日常で使ってみたくくなるような、一味違った語彙が増えること請け合いだ。

『お探し物は図書室まで』

推薦者：みい(ペンネーム)

青山美智子／著 ポプラ社 ★何度も読み返した本／心の支えになった本



新卒の社会人。子育て中のワーキングママ。定年退職した元サラリーマンなど。年齢も仕事も異なる5名の登場人物が、各パートで主人公になっている物語。1人ひとりが悩みを抱える中、ふとしたきっかけで街の図書室に足を運び、解決のヒントになる本と出会います。本を借りて読んだことにより、皆が自分なりの答えを見つけて前に進む展開は、読者である「あなた」の背中も押してくれることでしょう。助けになる5冊の本は全て実在する作品で、私達も手に取ることができるということも、本作のおもしろいところです。

『運転者―未来を変える過去からの使者―』

推薦者：^{こづかけいこ}小塚恵子

喜多川泰／著 ディスカヴァー・トゥエンティワン ★おもしろかった本

わくわくしながら読める自己啓発を促す小説です。運が悪いと思っていた主人公が、奇妙なタクシーと出会います。運転手は「運を変えるのが仕事」と言い、度々主人公の元に現れます。そのタクシーに乗車する度に、どん底だと思っていた主人公は、勇気と希望を持ち、立ち直っていきます。読了すると、生かされている自分に気付き、ものごとの考え方や捉え方、生き方が変わる1冊だと思います。是非、読んでみて下さい。

『ジョン』

推薦者：^{はらだじゅんこ}原田純子

エマニュエル・ブルディエ／著 平岡敦／訳 あすなろ書房 ★おもしろかった本

子供でいたってなんにもいいことはない。バローズ先生にはセイウチになりたいと言ったけど、本当は画家か詩人になりたかった。描いた絵や詩をベッドの下に隠しておいたけど、叔母さんに捨てられちゃった。家の下宿人がハーモニカを貸してくれた。学校をサボって練習し、2曲吹けるようになった。抑えがたい喧嘩の衝動が消え、やりたい事が少しみえてきた。母にも聴かせた。ハチャメチャで恋多き母だけど、母がいたからこそ、あの曲は生まれたと私は思う。『マザー』。

「母さん、ぼくはあなたのものだったけれどあなたはぼくのものじゃなかった～」

歌：ジョン・レノン 訳詞：今野 雄二

たくさんのご応募ありがとうございました。
お寄せいただいた原稿は、掲載の都合により一部編集させていただきました。
掲載は順不同になっておりますが、ご了承ください。



令和6年度

絵本の読み聞かせ講座



調布市立図書館では、年に1回、子どもへの読み聞かせに関心のある方を対象に連続講座を開催しています。10月に行われた今年度の講座の様子をご紹介します。

1日目

- ・絵本の読み聞かせとは
- ・なぜ今読み聞かせなのか
- ・読み聞かせの仕方 etc

○なぜ読み聞かせが大事なのか（講義内容より）

- ・子どもの目と耳からの読書体験である
- ・美しい言葉・文章を、安心できる近しい人の声で味わう
- ・イメージしきれない部分を絵で補いながら物語と出会う

2日目

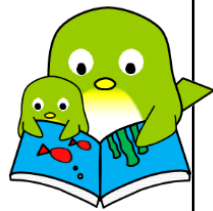
- ・絵本を選ぶポイント
- ・読み聞かせに向く本とは
- ・プログラムの立て方 etc

○プログラムの立て方（講義内容より）

- ・中心となる本を決め、組み合わせる
- ・盛りだくさんにせず、時間に余裕を持たせる
- ・異なるジャンルの本を組み合わせ、バランスを考える

3日目

- ・おはなし会の実践と講評



～講義の様子と受講者のコメント～



読んだことのない絵本をたくさん知ることが出来て楽しかったです。

図書館ホームページでも、報告をしています。

ご覧ください。



講師のアドバイスが
とても的確で
気づきが多く、
目から鱗でした。



毎年ご好評いただく講座で、
今回も満員御礼となりました。
絵本の読み聞かせ講座は、
来年度も開催を予定しています。
読み聞かせや絵本に
興味のある方は、
ぜひご参加ください。



市内各図書館で 配布しています

『今日のおはなしなーに？』

絵本の持ち方のポイントや、読み聞かせをする際の留意点などが載っています。





「出張！映画資料室」を開催します！



普段は見ることのできない映画資料も展示します。ぜひご来場ください！

「映画のまち調布 シネマフェスティバル2025」の詳細については、イベント公式ホームページ、図書館公式ホームページをご確認ください。

🎬 テーマ1 🎬 1954年に映画製作を再開してから70周年を迎えた、日活調布撮影所

🎬 テーマ2 🎬 『ゴジラ-1.0』で大注目のVFX技術とは？

「出張！映画資料室」

期間：令和7年2月22日（土）～3月2日（日）

時間：午前10時～午後7時

会場：文化会館たづくり2階 南ギャラリー

入場無料



昨年度の展示の様子

第52回 調布樟まつり —— 共に生き、共に学ぶ ——

「調布樟まつり」は、図書館と生涯学習団体「アカデミー愛とびあ」の共催で開催しています。

*詳細は、市報1月20日号や図書館ホームページをご覧ください。

日 時	場 所	催 事 ・ 講 師 等	
2月 8日（土） 午後2時～4時	たづくり大会議場	文芸鼎談	「深大寺短編恋愛小説20周年」 村松 友視氏、井上 荒野氏、清原 康正氏
2月10日（月） 午後2時～4時	たづくり大会議場	文化講演会	「天気によみとく名画—文化気候学の世界への招待」 気象予報士、東京造形大学非常勤講師 長谷部 愛氏
2月12日（水） 午後1時半～4時	たづくり映像シアター	第52回 短歌大会	「選評と講話」 雁部 貞夫氏、小島 ゆかり氏、松尾 祥子氏
2月14日（金） 午後2時～4時	たづくり大会議場	文芸講演会	「海を渡ったオフィーリア～名画と近代文学～」 名古屋外国語大学教授 エリス 俊子氏
2月20日（木） 午後2時～4時	たづくり大会議場	文化講演会	「南極の氷が語る地球環境の過去と将来」 国立極地研究所元所長 藤井 理行氏
2月25日（火） 午後1時半～4時	たづくり映像シアター	第53回 俳句大会	「選評と俳話」 太田 土男氏、權 未知子氏 高柳 克弘氏、坊城 俊樹氏

展 示 期 間	場 所	催 事 等	
3月12日（水） ～3月17日（月） 午前10時～午後 5時（初日正午から、 最終日午後4時まで）	たづくり南ギャラリー	調布淡彩画展	（調布淡彩画の会作品発表）

春をよぶ^{かどづ}門付け芸能関口 ^{のぶあき} 宣明

はじめに

お正月になると年神様を迎えるための松飾りをつけるように、年の変わり目に神が家の門に訪れて祝福をさずけるという信仰が日本には古くからあります。

生活を自然に頼ることの多かった明治大正期の農村部では、「門付け芸能」が年の初めに行われました。この門付け芸能には多種多様な芸人がおり、彼らの存在は、その年の五穀豊穡や無病息災を神に祈る人々に大切にされていました。

1. 門付け芸能

門付けとは、芸人が一軒一軒、人家の門口に立ち、めでたい言葉を述べ、音曲を奏で踊ったりして、お礼に米やお金を受けて歩く芸能です。調布では、昭和の初め頃まで、「春駒」^{はるこま}、「三河万歳」^{だいしかぐら}などが村の外から訪れていました。

春駒は、蚕の^{かいこ}守り神としての馬の作り物を身につけ、養蚕繁盛の^{しゅうげん}祝言をとнаえて踊る芸人です。また三河万歳は、紋付の礼服に烏帽子姿の^{たゆう}大夫がおどもの才蔵と懇意の農家にあがりこんで、^{つづみ}鼓に合わせて、おどけた踊りをしました。

こうした門付け芸は、家々に^{もんび}門扉がつけられたり、養蚕の景気が悪くなったり、また芸人の祝福の言葉には霊力がこもるとする「^{ことだま}言霊」への信仰が薄れるにつれ、しだいに御祝儀を集められなくなっていました。

2. 調布で続く門付け芸能

調布には、正月に地区の家々をまわって悪魔払いをする「^{ことぶきじし}寿獅子」という門付け芸能が今も伝えられています。これはもともと伊勢や^{あつた}熱田といった神宮に属する^{かぐらし}神楽師が江戸に来て、獅子舞や曲芸をして布教した太神楽に由来します。正月になるとこの一団は近郊農村を訪れて芸をするので、村の若者がそれを習って演じるようになりました。舞い人が獅子頭をささげ持ち、農家の庭先に入って太鼓、笛などにあわ

せて舞います。獅子に頭をかまれると病気にかからない、獅子舞が無事に終わらないうちはその年が



門付け獅子頭（上石原）

始まらないといわれ、獅子頭は、神仏が姿を変えて現れたものとされました。また村人同士が演じ手と見物人とを受けもつなど、田植えや餅つきと同様に助け合いの作業で行い、地域の^{きずな}絆を深めました。

現在も、市内の11地区には、秋祭りに^{まつりばやし}祭囃子を演じる「はやし連」という団体があり、その半数以上は「まぐさ（馬草）」ともよばれる獅子舞の門付けを行っています。

おわりに

門付け芸能は、太平洋戦争をさかいに、テレビの普及や、農業をやめて勤めに出る人や新しい住民が増えるなどの理由で衰退していきました。一方で、いまでも芸が受け継がれる地区の存在は、年頭に福を分ちあう芸能をすることで、一年間の村の安全や繁栄を神が保障するという信仰が根強く残ってきたことを意味します。昔の人にとって、麦打ち唄や神を迎える「^{さんばそう}三番叟」の踊りなどの歌や踊りというものは、娯楽であるよりも生活するための技術であり、その考え方は現代にも伝えられているといえそうです。

※参考文献：「調布の祭りばやし」『民俗大辞典』

刊行物番号

2024-126

図書館だより 第273号

令和 6年12月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>